

【活動報告】VOLAS 特別講座《VolaSpecial》を行いました

VOLAS では、社会連携マネジメント・オフィスと共催で、NGO/NPO の関係者をゲスト講師としてお招きし、2019 年 12 月に 3 回の特別講座《VolaSpecial》を実施しました。

第 1 回 12 月 10 日(火) 5 限(16:00～17:30) 参加者:40 名

テーマ:ロヒンギャ難民支援の現場で起きていること

ゲスト:中坪央暁さん

難民を助ける会(AAR)元・バングラデシュ駐在員、ジャーナリスト



国際協力団体(NGO)のスタッフであり、同時にジャーナリストでもある中坪さんが、非常に複雑なロヒンギャ難民の歴史と現状を、とても分かりやすく解説してくださいました。

《参加者のコメントシートより》

「それぞれの問題が複雑に絡み合った、解決が難しい問題だと思いました。どの民族も彼らの故郷で安心して暮らせる、多様性を認め合える社会が必要だと考えました。」

「NGOの活動も興味深かったですが、ジャーナリストの立場から国際政治の動向を客観的に分析されており、非常に勉強になることが多かったです。」

「ルワンダでシングルマザーを支援するインターンに参加する予定で、現在どのような新しいプロジェクトがあるかを検討していたため非常に有益だった。女性がどのようなことに困って何を必要としているのかについて、自分の知識ではたどりつけないようなものがたくさんあり参考になった。」

第2回 12月17日(火) 5限(16:00~17:30) 参加者:12名

テーマ:スマホから考える世界・わたし・SDGs ~ 開発教育ってなに?

ゲスト:岩岡由季子さん 開発教育協会(DEAR)スタッフ



「あなたのスマホはいま、何台目ですか?」という質問に始まり、スマホを糸口に自分と世界のつながりについて参加型で学ぶワークショップを参加者全員で体験し、その後、岩岡さんより、開発教育とは何かということをお話いただきました。

《参加者のコメントシートより》

「社会開発の授業で取り扱わない、経済に関する“スマホ”から社会的問題が次々と浮上し、考える糸口ができて非常に興味深かった。当たり前に使っているモノの裏側には、どんな状況があって誰が係っているのか想像力をはたらかせるきっかけとなった。ロールプレイでは、その人の立場になりきって考えるという経験をしたことで物事を複眼的に、複層的にみる視点が得られた。」

「スマホを、飽きたから・新しいのが欲しいからと今まで変えていたが、もう少しサプライチェーンについて考えてみたい。消費者が案外大きな力を持っているのかもしれないというのは、とても興味深かった。」

第3回 12月19日(木) 5限(16:00~17:30) 参加者:10名

テーマ: 武蔵野市をフェアトレード・タウンに!

ゲスト: 坂口和隆さん

シャプラニール=市民による海外協力の会 代表理事、フェアトレードむさしのメンバー



日本を代表する国際協力NGO「シャプラニール=市民による海外協力の会」の代表理事であり、同時に、地域活動にも熱心に取り組んでいる坂口さんに、武蔵野市で進めている「フェアトレード・タウン」の運動についてお話を伺いました。

《参加者のコメントシートより》

「シャプラニールが現地でやっている活動の多くが日本での活動と結びついていると知り、国際協力団体の中でも身近に感じ、魅力的に感じた。フェアトレードの取り組みも、目的のために活動を広げていっているのが伝わってきて素敵だと思った。」

「様々な団体で活躍されている坂口さんのお話は、本当に貴重だった。日々、周りの市民や世界の『取り残された』人たちのために貢献しようとする坂口さんの生き方は尊敬できると思った。今の自分にも何かできることがあるかを考えて、実践していきたい。」

日時: 2020年01月23日